

# メキシコだより 3月号

川田 佑樹

3月の中旬ごろから4回目のセメスターが始まりました。ここまで3回受けてきたセメスターとは異なり、内容的にも文法的にも複雑になってきたため、より一層努力をしないとついていけなくなった気がします。気を引き締めてしっかりと学びたいと思います。今月はプエブラへの日帰り旅行についてレポートします。

## プエブラ

メキシコシティから高速バスで東の方角に2時間近く走ったところに位置し、コロニアル様式の建物が今も多く現存している町、プエブラへ行きました。今回の旅行は母親、弟の2人がメキシコに来ていたので3人で向かいました。この町は、街並みやタラベラ焼きという民芸品など、メキシコの縮図のような街です。



この町の中心地から少し離れた Cholula と呼ばれる場所には丘の上に立派な教会があります(1枚目の写真参照)。実はこの丘のようなものはピラミッドなのです。世界的に見ても大きさは最大級ですが、実際のところあまり発掘等はされておらずただの山のように見えます。2000年以上前、この地は文化や宗教の中心であり、このピラミッドを中心に多くの住人が住んでいました。その後16世紀にスペイン人の侵略により周辺にあった神殿等を壊し、キリスト教を広めるために教会の建設を増やしていきました。この教会もそのひとつであり、侵略を強調するために、かつて原

住民に慕われていたピラミッドの上に教会を建てたのかなと私は考えました。

カテドラルや Cholula の頂上にある教会の中はきれいでしたが、写真を撮ることはできなかった。ぜひご自身の目で確かめるために一度 Puebla へ訪れてはいかがでしょうか。



## 貧困

今となっては慣れたものの、メキシコでは道端に物乞いの人が多くいたり、物売りの人が店に入ってきたりといろいろと日本では考えられないような状況が起こります。先日、某カフェチェーンでコーヒーを飲んでいたら、物売りの少年が入ってきて物を売り始めました。しかし、その店はそのような物売りは認めておらず、少年に帰るように促していましたが、その少年はその注意を無視して、一生懸命売り続けようとしていました。この背景にあるのは貧困であり、物を売って稼いだお金でその日を生き延びるといった感じなのかと想像すると正直心が痛みました。大統領が昨年末に変わり、今回のロペス・オブラドール大統領(通称アムロ)は貧困、汚職等の環境の改善に取り組んでいるので、浅はかな考えではありますが、より良い環境になってほしいです。数年後にメキシコへ訪れたときが変わっていたらうれしいです。